

折に触れ 四字熟語

NO. 152 『一醉千日』 いっすい せんいち

< 意味 > 非常にうまい酒のたとえ。少し飲んでひと酔いしただけで、心地よくなり千日も眠る意から。

出典：「博物志」^{はくぶし} 10

故事：劉玄石という者が酒屋で非常に強い「千日酒」という酒を求めた。酒屋はこの強い酒の飲酒の限度を注意するのを忘れたと、千日たったところを見はからって玄石を訪ねたが、家の者は酔って眠っているのを死んだものと思い込み、すでに葬っていた。そこで墓をあばいて棺を開けたところ、大きなあくびをして、ちょうど目をさましたという故事から。

用法：ちょうど新潟からいい酒が手に入った。今宵はこの一醉千日の美酒で、一献やろうではないか。

一言：コロナウイルスの影響で、外出の機会が減るにつれ、自宅での酒の回数と量が増えてきたのは私だけではないかと思えます。

今回の四字熟語は中国らしいスケールの大きな故事・寓話ですね。こんなにうまい酒を飲んで、棺に収められるのはなんとか避けるとして千日後に目覚められたら、その時にはコロナウイルスは完全に収束していることでしょう。

参考文献：岩波書店「四字熟語辞典」